

【講師からの回答】
2025年度 市民向け医療講演会
Lu-177 標識 PSMA 製剤がもたらす前立腺がん治療の新展開
講演内容についてのご意見・ご感想

事務局に寄せられた本講演に関するご意見につきまして、講演をご担当いただきました平田先生よりご回答をいただきました。

Q1, 臨床試験の成績について、「生存期間を延長するが、全員に効くわけではない」とあるが、その理由を知りたい。

A1, 生存期間を延長する効果が期待される一方で、すべての患者さんに同じように効くわけではない主な理由は、がんの性質が患者さんごとに異なるためです。PSMA 治療は、がん細胞に PSMA が十分に発現していることを前提とした治療ですが、その発現の程度には個人差があります。さらに、同じ前立腺がんであっても、がん細胞の増殖する速さや治療に対する抵抗性の強さは一様ではありません。そのため、よく効く方もいれば、効果が限定的な方もいます。

Q2, PSMA 治療は去勢抵抗性前立腺ガンにならないと適用できないが、オリゴ転移などのより初期の段階でこの治療を受けた場合の治療効果はどうなるのか知りたい。

A2, ご指摘のとおり、「もっと早い段階で使えば、より効果が高いのではないか」という発想はとても自然で、実際にその可能性を調べる研究が進んでいます。たとえば PSMAddition 試験はホルモン感受性前立腺がん、LUNAR 試験や PSMA-DC 試験はオリゴ転移の段階を対象とした試験です。現時点では有望な結果も出ていますが、まだ最終的な結論には至っておらず、今後の検証が必要です。

公益社団法人 日本アイソトープ協会

医薬品部 医薬品・試薬課内 市民向け医療講演会事務局

E-mail: iyaku-kosyu@jrias.or.jp

TEL:03-5395-8034